

会議名：退職者による原発暴発阻止プロジェクトに関する打ち合わせ

主催： 牧山ひろえ先生

★第一回 院内集会

日時： 5月24（火） 11時30分～12時30分

場所： 衆議院第二議員会館 第三会議室

牧山議員 今日では退職技術者による福島原発暴発阻止活動について説明会を行います。今福島原発の中で、現役の若い作業員の方々が次々と中に入って、炉の冷却のため、あるいは測定のために作業をしている。この若い作業員は将来子供を持つかもしれないし、子供は持たなくても、少なくともこれから30年40年と生きていく人達です。ということは30年40年後に放射能の影響が出てくる可能性があるわけです。そんな若い作業員の姿をテレビや報道で見て立ち上がったのが、今日こちらにお越しになっている退職技術者の方々です。若い作業員よりは放射線の影響が比較的少ない、また将来子供を持つ可能性もなく、世代を跨っての放射能被害をもたらすこともない。また技術面でも若い人より経験がある。だからぜひ若い作業員に代わって自分達に原発暴発阻止をやらせて欲しい。代表の山田さんがツイッターなどでお仲間の退職技術者に呼びかけたところ、今日の時点で165人の方々が行動隊に、796人の方々が応援者として手を挙げている。ここで原発暴発阻止行動プロジェクトの山田代表にお話しいただき、皆様のご理解とご支援をいただきたいと思っております。

山田 今日集会のため、私の呼びかけに答えて下さった千人近い方に声をかけたところ、初めてお目にかかる方々がたくさん集まって下さり、そういう機会を作って下さった牧山先生に感謝します。最初は、こういうことも考えなきゃいけないよね、というぐらいのつもりで呼びかけてみたのですが、大変いろいろな方から反響を頂き、私としてもびっくりしているというのが正直な気持ちです。趣旨は牧山先生がおっしゃったことに尽きていますが、要は我々現場で何十年も仕事をしてきた者からすると、どんなに小さな設備でも、どんなに大きな設備でもそうですが、現場に入って仕事をするのがどうしても必要になります。それがなくなるとちゃんとした設備はできない。特に今回は、10年という時間にわたって壊れない、しっかりした設備を、非常に悪い環境の中で、しかも本来の設備が壊れてしまっているという状況の中で作り上げ、かつそれを10年間運転し続けなければならぬとしたら、なんか設備を持って行ってポンと据えたらいいというような、いい加減なことではとても間に合わないということは、原発のことを知らなくても、設備のことをちょっと知ってる者なら誰でもすぐ分る。これを実際にやっている方々が、私どもの知る限りでは、きちっとした訓練を受けずに集められ、ぽっと仕事をさせられて、そのままある意味では使い捨て的に使われている。これでは実際にいい仕事が本当にできるの

であろうかと、非常に心配になります。いろんな議論がありますが、とにかくしっかりした設備を、後の世代に悔いを残さない、この事故を始末するだけの設備をきっちり作り、それを運転するというところだけを私達の任務にして、それで集まろうよということです。今は東電がやっていますが、実はこの原発はもう二度と動かないわけですから、東電の手を離れなきゃいけない。多分東電の手を離れて廃炉の工事が始まる時には、またそれに相応した仕事があると思いますが、それまでの過程は非常に不安定な状態がずっと続くわけですから、東電の手を離れて廃炉までの道をしっかり作るための現場の仕事を我々にやらせて欲しいということを、私としては訴えているつもりです。一体どういう組織ならいいのか、費用はどういうふうにするのか等々、いろんな議論があると思いますが、これは原発事故の関係で沢山ある問題の中の **one of them** として、ひとつひとつ解決していかねなければならないことで、一刻も早くしっかりした作業体制を作り、人の体制を作ることが必要です。これには政府の力あるいは国会議員の皆様のお力がどうしても必要だと思いますし、その組織というのは政権とは離れた、つまり政権がどう変わろうがちゃんと続けて動いて行く、しっかり働き続けるというふうな、国家レベルの組織でないといけない。それが第三セクター的なものになるのか、あるいはNGOになるのか等々、いろんな議論が残っておりますが、とにかくみんなで知恵を出し合って国がサポートして、こういう組織をしっかり打ち立てて働き続けるようにするということが、どうしても必要だと思います。東電が受け入れるかどうかという議論もありますが、もっと国家レベルで考えてこの事故の収束をどうするかということとの兼ね合いで、我々がどんなふうに関与場所があるのか考えて頂きたいというのが、私の強い希望です。ここに集まった方々は、ひとりひとりその辺ではニュアンスの違いがあるとは思いますが、たぶん根底のところでは思いは一緒だと思いますので、そういう声を聞かせて頂ければ大変嬉しいことですし、国会議員のみなさんにも、参考になることが多いのではないかと思います。

牧山議員　ここで私立病院協会の副会長、安藤高夫医師にこのプロジェクトについてコメントをして頂きます。

安藤医師　私も3月14日に医療救護班として、いわきの方に行きまして、原発の現場から来られた方の除染の問題などに関わりました。そこで一番感じたのは、現場に大きな災異のきちとした情報がないこと、また行政の方も医療従事者も、放射線障害に関するきちとした知識を持っていなかったことです。これは非常に大きな問題ではないか思っております。この辺をきちっと浸透させることが、まず行うべき大きなことではないかと感じております。今回のプロジェクトは非常に素晴らしいもので、私も心から感激しておりますし、これはすごいことだ、よくOBの方々が立ち上がってくれたということで、ものすごい反響がございました。私は一人の医者として、医学的に考えても、三つの、メリットと言えは変ですが、大きな効果があるのではないかと考えています。ひとつは、OBの

方ですからたぶん60歳以上70歳以上なので、たぶんその生殖年齢は過ぎており、まあ元気な方は違うかもしれませんが、子供をお持ちになる確率は少ないのではないかということが一点。二つ目は、放射線の障害は急性期に出る場合と、晩末的に10年後20年後に癌になる確率が高いということがありますが、年齢から言って今多少とも多くの放射線を浴びても、発症するのは非常に高齢になってからということで、こういうことを言うては変ですけど、寿命をまっとうする時期が近いのではないか。もうひとつは、小さなお子さんや若い方と高齢の方の大きな違いは、小さい赤ちゃんというのは細胞分裂がものすごく早いわけです。細胞分裂が早いパターンの方が放射線の障害を受ける確率をはるかに高いということで、年齢的にもその障害を受ける確率をはるかに少ないという状況があります。この三つのことを加味すると、高齢者は医学的にも若い方に対して安全性は高いのかなと思っております。

牧山議員 ぞくぞくと賛同者の方々、応援してくださっているの方々、あるいはこのプロジェクトで実際に働いてみたいと手を挙げて下さっている方々が、どんどんお部屋に入ってくる姿を見て本当に嬉しく思います。こんなにお集まり頂いたので、マイクを回しますので一言ずつ、このプロジェクトに賛同する理由 あるいは行動隊として行ってみたい理由や経緯など、抱負でも結構ですので、みなさんのお話をお聞きできればと思います。

三上 僕らは九条改憲阻止の会というグループでこの問題を取り上げており、原発問題では確かに反原発という立場ですが、同時に基本的な問題がひとつあります。現在起こっている具体的な問題に対して、具体的に考えて対処することがどうしても必要で、そこでの非常に困難な問題のひとつは、暴発をどう阻止するかということです。具体的にどうなっているのか、それに誰が具体的にどう対応するのか、具体的な被害がどうなるのか、それに具体的にどう対応するのか。そういう具体的な問題に対して、我々は具体的に自分の行動をもって対処する必要があるのではないか。そこにいろんな意味で抽象的な議論よりも困難性があるわけですが、そういうプロジェクトに自分も具体的な体をもった行動によって、なにかの形で加わりたいと思って参加しました。

?? こんな席で喋る立場ではないのですが、3月11日に発災してから次の週の月曜日まで、実は私も電力会社の確保で勤務しておりました。技術屋としてみた場合、残念ながら非常に恥ずかしい思いと悔しい思いをいろいろしてきました。ひとことで言えば、若い人にこういうことは任すべきなんです、ちょっと任しきれないなという部分があって、いろいろ思考している時に山田さんの友人から電話を頂きまして、私も余生もろくないので、その中で出来ることはないかなという思いで参加しました。私自身は原子力の専門家ではありませんが、体力的に、それから安全等々についてかなり長年経験してきました。今回の事故を聞いてみると、危機管理上かなり問題がありそうです。それから設備

的にこれからどうすればいいかという未知の分野に対して、非常に学問の世界は発達しているのですけれども 技術の世界はどこまで行ってるのかなと、非常に疑問を持っており、できることなら現場に行って、現場で何が問題で、どうなっているのか、技術屋の立場で少し役に立てばということに参加しました。

平井 私は技術者ではないのですが、山田さんの呼びかけにたぶん私は2番目に応募したのではないかと思います。ちなみに1番目は私の妻です。これは年寄りが一番向いている仕事だと思っていて、あと何年生きるか分かりませんが、残された命を役に立てたいと思っています。技術者でなくても手伝えることはいろいろあると思うんです。あそこを収束させるのは、たぶん10年あるいは何十年という単位になると思います。私の晩年があと何年になるか分かりませんが、そのために使いたいと思っています。

シノダ 私はユーストリームでこの活動のことを知り、報告書を読みました。まだ年がちょっと若いのですが、何かお手伝いできることがないか、これから先たぶん長くなると思っていますので、その中で自分が何か役に立てることがあればと思って参加しました。

中西 私は2001年から4年頃までごろアフガニスタンの復興支援、通信関係の復興支援に携わっておりまして、その時同じNGOで山田さんと知り合っていました。実は今回の3・11の事故の後、決死隊という言葉が新聞紙上なんかに出て、私自身は無線関係ですので こういう技術技能には知見もないのですが、やはりそういうものが必要じゃないかと思っておりました。では自分に何ができるんだろうと、家庭の事情もあってもどかしく思っていたのですが、山田さんが腰を上げられたことを知り、これは何としてでも、自分に行かなくても山田さんをサポートしなきゃいけないってことで この会に参加しました。

イチムラ 神奈川県で夫と二人で規模は小さいですが金属加工業を営んでおります。製品を作って納めて製品が事故を起した場合を考えると、原発というひとつの製品がああ事故を起して、これからどうやって作った人達と関わったり、収束を迎えるように対処してゆくのか、それが製品を作るという立場で大変気になって、内情はテレビだけでは分からないので、今回お役に立てることはさほど私にはないのかなとは思ったんですけど、内情を少しでも知りたくて参加しました。

平井2 3月11日の後の3月18日に私は mixi の日記で、これは若い人がやるべきではない、我々老人が立ち上がるべきだとコメントしたら、驚いたことに翌朝見たら若い人を中心にアクセスが500もありました。その後ニュースに目を凝らしていたのですがそういう動きもなく、たまたま知ってる女の子がボランティアをやっているグループが炊き出

しに8回ほど行っているのですが、そういうグループに救援物資を友達から集めて送るという細々とした活動をしておりました。3日ほど前にこの行動を友達から教えてもらい、喜び勇んで参加させてもらいます。

内藤 この原発の経過を見て本当にびっくりしたのは、みんな想定外想定外と言うんですね。日本は想定外の想定に、全く対応する体制になってないんじゃないか。確かに想定外というのは、考えられないことかもしれないけれども、想定外のことにどうやって対応するかということをしちっと作っておかないと、原発なんていう人間が制御する能力があるのかないのか分からないもので想定外のことが起きた時に一体どうするのか。私は今回のこの原発の行動隊というのは、やはりこれは恒久的に国家体制として、想定外のことが起きた時にきちっと出て行ける組織として作っておくべきではないかと思います。私は60歳を越えているけれども技術者ではありません。でも技術者じゃなくても、現場に行きたい人に研修なりなんなりをやって頂ければ瓦礫の撤去ぐらいできるだろう、みんなでこれをきちっと収束させて行く体制を国家として作ってゆく必要があるのではないかと、そういうことをこのプロジェクトを通じて実現できたらなと思います。お手伝いできることがあれば現場にでもいくらでも行きたいと思っています。家族は反対していますがなんとか説得して、なおかつ私は死にたいとは思っていませんし、応募された千人の方々も別に死ぬなんて思っていないわけですから、その人達と一緒にぜひ行動したいと思っています。

高橋 ネットで山田さんの呼びかけを拝見して、エイとお答えのメールを差し上げました。その後かなり決死隊とか特攻隊とか議論が出てきて、これは嫌だなあと思ってしばらく躊躇していたんですが、岩上さんのユーストリームのインタビューを拝見して、みなさんが非常に自然体で、当たり前なことだよと行動していることがはっきり分かったので、それならということで参加することにしました。私は技術者じゃないので、なにか自分の体を動かす形で、瓦礫の撤去でもなんでも、肉体労働には自信がありますので、なんとかお手伝いできたらなと思っています。

松井 東京都に住んでいます。山田さんのこの活動は4月の末頃にツイッターで知りました。私には9歳の娘がいて、今は元気ですが、その娘が生んだ孫、孫が生んだ曾孫ということ考えた時、やっぱり癌や奇形が心配なんですね。それで100年後の日本だけではなく、地球というものを考えた時に、負の遺産になってしまう。どんどんそれが繰り返して凝縮されて、人間はどうなっちゃうんだろというのが心配で、考えていました。誰が作業をするのが合理的なのかと考えた時に、山田さんがおっしゃることがものすごくよく理解できたんですね。先ほど安藤先生がおっしゃった三つの医学的観点からのメリット、これがずっと入ってきて、私はすぐに賛同人に登録しました。ただ長い時間がかかりますし、私は今46歳ですけれども、60になった時にはご飯炊きとかお洗濯とかそんなことでも、

手伝いのできればいいのかと思っています。もし今私の年齢が60歳以上だったら、迷わず行動隊に登録していたと思います。

野村 賛同した理由は、命を賭した懸けた決断に心意気を感じたからです。今の原発の問題は日本だけでなく世界中の問題で、世界中の人が一番認識していない重大事故が起こっていると思います。だからこれから行動隊がいろんな作業をするに当たっても、最高の作戦のうちで作業しないと、ただ討ち死にします。それには世界中の、日本では小出助教だとかいろんなことを知ってる技術者や、アメリカの軍隊やテロ対策専門家などが来ましたね。そのニュースもメディアには一部しか出ていない。メディアのもどかしさ、一刻一刻を争う事件が起きているから、それを隠さず全部報道するということが、例えば、今ツイッターなどで流れているドイツが発信している放射能の拡散する様子など、日本のメディアは全然報道しないということがあり、なにしろ世界の技術者が集まって有効な作戦を立ててから行動しないと意味がないと思います。心意気だけはものすごく感じて僕も賛同したわけですが、発信するひとつの団体としてそういう心意気で訴えたいのではないかと思います。それが地球上の国境をなくすことを訴えることにもなるし、チャンスと言ったら被災された方には非常に恐縮ですけど、そういう意味で大きな機会だと思います。

牧山 ここで、国会議員の先生方がいらっしゃっておりますので、どなたかコメントのある方、いらっしゃったらお願いします。

田中議員 新潟選出の参議院議員の田中直紀でございます。具体的に牧山先生からお話を伺いまして、関係者のみなさま方の熱意と行動の成果がしっかり上がるよう、我々がお手伝いをしていかななくてはいけないなど、そんな思いで今日参加をさせていただきました。みなさま方の経験あるいは熱意、そしてまた今大変な原発事故の最中ではありますが、将来のことを考えながら自分がお手伝いをしてゆければという思いがひしひしと伝わったところでございます。これはやはり国がこの意欲を汲んで、事故を収束させるという強い決意がなければ収束しないわけでございますし、他人事ではございません。そういう面ではわが国最大の懸案事項でありますので、みなさま方が具体的に進めて行く時にはお手伝いをしてゆきたいと思っております。たまたま私も存じ上げている、いわき市の久ノ浜のご家族が被災され、生活を今三世代で頑張っておられる中で、東電の環境エンジニアリングに勤めておるその若い青年が富岡で仕事をやっておったわけですが、会社から声がかかったんで行って参りますと、今作業に従事しておるということを知っております。若い青年でありますから心意気は通じてやってくれてるんだと思いますが、やはりいつまでも若い青年の気持ちだけでは仕事が続かないわけでありまして、その立場を考えながらもやはりみなさま方の経験を活かして、なんとかこの重大な事故の収拾に力を貸して頂くということも伝わるとは思わないかと、そんな思いで今日は参加させていただきました。今日の会議が成果が上

り有意義なものになりますよう、心からお祈りを申し上げます。

牧山議員 引き続き次の方にマイクをお願いします。

佐藤 私は原爆の爆心地広島で生まれ、放射能汚染については幼い頃からまわりに沢山の被曝された方がいらっしゃいまして、私も妻も被曝2世なので、遺伝、DNAがどのように恐いものであるか、いかに恐い結果に陥るかということもよく分っております。そういう被曝の方々と一緒に幼少から学園生活を共にし、またいろいろ病に侵されて旅立って行ったということも体験しています。ということで私は小さい折から放射性物質、放射性の半減期ということについての恐さは身にしみております。福島原発事故を知った折りに真っ先にこれは大変な状況になったと、これはいかなることになるかと、私自身ずっと問い詰めておりました。いかに放射性物質を消滅させるか、今六ヶ所村で除去して向こうに保管してもらおうとか、世界でも北欧の方で地下数百メートルのところに掘って埋めてしまうとかいう話が出ていますが、非常に問題ありきの内容であろうと思います。私もいろいろ勉強しながら研究もして、この放射性物質を消してしまいたいという一念で今日まで来ました。微力ではありますが、お力添えになるかと思ひまして山田さんにお電話させて頂いたということです。

西村 愛知県の犬山から来ました。5月20日の中日新聞で山田さんの記事を読み、さっそくメールをし、昨日は牧山先生の山田さんのインタビューを牧山先生のホームページで見ました。それで昨日メールを打って、今日は友達とゴルフをする予定があったのですが、キャンセルして来させてもらいました。私は経験としてはプラントの環境管理をやっていまして、北海道の札幌から九州の篠栗のところまで七つほど管理させて頂いております。そういうことでプラント関係では仕事として現場監督などをやっております。ここへ来る前に、ボランティアで瓦礫の整理などしようかなと思ったのですが、歳だし足手まといになってはいけないと思ひていました。新聞を見てこれなら私はやれる、またやりたいと思ひて参加させて頂きました。

篠原 私は国際NGOという活動をしており、20年前チェルノブイリの原発事故の支援から活動を始めました。今回の原発の事故に際して思うことは、チェルノブイリの被災地の住民達は子供達の甲状腺がんにも大変怯えています、さらには強制的に疎開させられた住民達の生活を完全に破壊してしまうということです。農民が自分の土地から離れたらどういふことになるのか、これはもう人間ではないというような存在に陥ってしまうわけです。こういうことをやはり学ばなければならない、そう思ひて今回も原発事故の暴発阻止にとどまらず、被災地の人々の救援のために全力を尽くしたいと思ひているわけです。山田さんと私は同じ歳ですが、終戦時に小学校の1年生で満州から引き上げてきましたが、

日本中が焼け野が原でした。今回被災地岩手、宮城を見てきました。これもまさに言葉に出せないひどい状況ではありますが、範囲から考えれば1945年の日本人が舐めた苦しみに比べれば、日本人全体としてですよ、もちろん被災された方はそれぞれ大変なことではございますが、日本全体として見たらさほどのことではない。やはりこういうことを経験した老人がしっかりがんばらないといけない、そうでないとこれを知らない人達にとってはこの世の終わりのように思っただけで意気阻喪してしまう。政治家のみなさんは若いですから、こういう年寄り達を参考にされ、意見もよく聞いてお進みになるべきであろうと思います。

三浦 私は今年55歳で技術者でもありませんが、応援者として登録をさせていただきました。静岡で育ちまして浜岡原発ができる前の10代の頃に反対運動がありました。あそこに「ねむの木学園」という肢体不自由な子供達の施設が砂丘にありましたが、そこに関わって見学に行ったりしていた時に、ちょうど原発を作っていました。風光明媚な所で、原発との違和感をどこかに感じながら、また反対運動も知りながら、東京に出てきて芝居の仕事はずっとしております。たまたま3月11日に大震災が起きた時は、自分のライフワークとして広島と長崎の両方で被曝された二重被曝の山口彊さんという方のことを芝居に書こうと決めた直後でした。そのため取材にニューヨークへ行く直前だったんですけども、なにかその仕事がそこで止まりまして、私自身が原発について何もしてこなかった、何も知らずしてこなかったことの葛藤がその後ずっと続きました。今世間では批判の運動もあり、元々あった原発村よりも反原発村の方が大きくなっている現状ですけども、今私自身は誰かを批判することにエネルギーを注ぐよりは、自分自身が今起きている火事ととにかく消さなくてはならない、そんなことにエネルギーを使いたいと自問自答している時に、ユーストリームで山田さんのメッセージを受け取り、これだと思いました。55歳なので今は直接の対象者にはなりません、バックヤードとかサポーターとして応援をしてゆきたいと思います。もう子供を作るつもりもありませんので、できれば現場に行きたいと思っています。たまたまのタイミングで昨日メッセージを受け取ってここに来たのも何かの縁かと思っていますし、今日ここにすれば自分のやれること、やりたいことが見付かるかなと思って期待しております。

土屋 私は50数年前に当時の砂川の米軍基地の反対闘争や原水爆禁止運動を学生としてやってきまして、山田君は私とまったくの仲間で、当時本当に真剣に平和と命を守るための運動を続けていました。その気持ちを現在も持ち続けてこういう情熱になったと、僕は感動していますし、僕も今、伊達判決という安保条約を違憲とした裁判を伝えて行こうという運動を、同じような気持ちでやっています。ですから、この山田君の素晴らしい活動には心から感激しています。彼はご承知の通り僕らと違って緻密ですから、決して命を粗末にするような運動にはしないとします。今回の運動でもみなさま方の命をきちっと守

り、そのことを通じて今の子供達や孫達に命の大切さを伝えてゆく、と同時に今非常に問題なのは福島原発そのものが非常に危機的な状態になっていて、どうやって防止するかという方向すら見えない状況になっていますが、そういう状況の中で現場に参加することによって問題点がもっと明らかになると同時に、情報がきちっと公開される絶好のチャンスになると思います。そういう意味でもぜひがんばってほしいと思っています。

堀江 私はずっと東京電力と付き合いがありまして、実は去年の暮れに全電源喪失事故一歩手前というのが福島の1の3であったんです。これをどうするか、もしディーゼルが動かなくなったら大変だという話までしたんです。だけど経済産業省の方、保安院の方ではそんなことは起こり得ないということで、一言のもとに切り捨てられました。3月11日はちょうど議員会館に来ていて、そのあと私は一週間ばかり放心状態というか、今まで私はなにをしてたのかと思って、非常に責任を感じました。誰に？ 私の子供と孫にです。そこで子供と孫に何ができるのかと考えました。まず一番最初に思うのは、原発をまず止めなければならない。今の状態をなんとか収束しなきゃならないということで、私には知識はないけれども、経験からいろんな想像ができるわけです。チェルノブイリの時もそうですが、決死隊が行ったわけです。必ずそういう人達が必要になってくる場でもある。しかもそれは初期の段階で早いほどいいわけです。早いほど手を打つことによって広がらないわけです。ところが今、ずっとこの状態を2ヶ月見てますけれども、全然情報を公開しない。先ほども言われたように、世界からいろんな知識を借りてやらなきゃいけないのに、情報を出さないで閉鎖している。だからここまで広がってきちゃったという現状がある。でもこの現状に直面した場合には、それをなんとかしないとイケない。私は技術屋でもなく、資格もないんですが、事故の1週間経ってから東京電力に、私を下請けの方に入れてくれと言いました。なんとか自分も現場でなにかをしたいと思った。これがひとつ。もうひとつは防災なんかをやっていれば分るんですが、一番大事なのは現場の人達が安全であるということです。現場にいる人達が安全になれば、まわりにいる人達も安全になるんです。だから一番最初に必要なのはそれです。今入って行って病気になり、入院なんかすると家族に迷惑がかかる。労災とありますが、原発における労災というのは、これを立証するには裁判なんかしたりして、なかなか大変なわけです。だから特別法を作らないとイケない。これは議員のみなさんをお願いしたいところですが、例えば福島の最後に入った方については必ずこういう法の下において、その後についてケアをするということだとか。それともう一つは住民の方についてもそうなんですが、あくまでも福島原子力発電所についての被害においては病院のことなどについての法律を作って頂ければいいかなと思います。いろんな思いがあっているのですけれども、少なくとも私は反対というか、なるべく止めるように、安全なようにと思ってきましたが、起こった事故については推進だろうが反対だろうがみなさん一緒に被るんですよね。だから私はそれももう全然関係ないんです。推進でも反対でもいいんです。今の現状をまずは止めないとイケないということ

が、まず第一にある。子供に対して孫に対して。そのためにやりたいことができたと思います。私は別に技術的に特技はないけれども、山田さんと電話でお話した時に、実はこれこれこうなのだよと、やっぱり傍でサポートする人が必要だよという話も伺いましてね。東電の方は私をなかなか受け付けてくれないと思いますので、こちらに登録をしておきました。

牧山議員 もうお一人、国家議員の藤田先生がいらしてくださっていますので、ひとことコメントを。

藤田議員 参議院議員の藤田幸久です。タイトルだけ見て参りまして、みなさんが何をされようとしているのかまだ詳しくは知りませんが、私は茨城ですので、東海村でJCOが起こった経緯等についても知っております。それから福島についても、この間アメリカでNRCの前の委員長とお会いし、エネルギー省の方々ともお会いしてきました。原発の事件が起きてから、実はロシアの専門の方が日本の支援にきたんですけれども、日本政府が断ってしまい、それをメドヴェージェフ大統領やプーチン首相に報告をした方からのレポートも参りまして、例えばロシアであればこういう対応ができたというような提案もきてたので、それを政府に伝えたりしました。こういう事故の経験があるのはアメリカとロシアですから、かなり多角的な技術の方々の支援も必要ですし、東海村にはまさにJCOの時に対応した方々もいるのですが、あそこは科学技術省の系統で、今中心にやっているのは経産省ですから、なかなかそういった方々の知識経験を受けるまでに随分手間がかかってしまうというような後手後手がございます。今の福島の問題は世界の問題になっています。ジャック・アタリというヨーロッパの開発銀行を作った方が、日本が治権国家として自国民を守れず、地球を汚染する状況になった以上は、国際社会として介入しなければいけないというようなことも言うておられますし、アメリカのノーベル経済学賞を取ったスティグリッツって方は、今回の日本の原発のできごとは1929年の大恐慌と非常に類似している、つまり大丈夫だ、大丈夫だと専門家は言っていたけど、全然大丈夫じゃなかったことを証明してしまったと。そういった大変な状況だと国際社会は見ておりますので、今日から日本の総理もG8等に行かれますが、そういった対応をしなければ世界から信頼を失う、また失った信頼を挽回することはできないと私は申し上げておりました。そんな中で退職後の技術者の方々が現地に行かれるということは、大変高邁な行動で、敬意を表したいと思います。牧山さんと安藤さんがやっていることに間違いはなく、本当に人類愛に満ちた行動をされるお二人でございますから、できることは応援をさせて頂きたいと思います。みなさま方も、犠牲になることが目的ではなく、みなさまが行かれてより多くの目的のために行動されることに意味があると思いますので、がんばって頂きたいと思います。

牧山議員 ここで山田代表にみなさまのコメント発言を受けて、お話をさせて頂きたいと思

います。

山田 最初に申し上げたように お名前だけは頂いている方々と初めてお会いさせて頂いて、何人かの方とは電話でお話しをしましたが、今日初めて本当の気持ちを聞かせて頂いたことが非常に多くございました。例えば非常事態に対応する組織として原発の是非を論じないという先ほどのお話とか、被災者の救援という問題に対してもスコープの中に入れてゆくという議論も、やはりひとつの新鮮な提案ですし、こういうことがまだまだ沢山あるだろうと思います。また国際社会との提携というものもひとつのテーマとしてある。そういうことをいろいろな機会にみなさまのご意見を集めて、少しでも内容の膨らんだ充実した活動として仕上げていければと思います。昨日の午後の2時半頃からメールをお送りしたと思うのですが、急な話にもかかわらず22時間後ぐらいにこんなにたくさん集まって頂き、大変びっくりしております。ありがとうございます。その間に昨日の晩にも、現地時間では23時ぐらいにドイツのテレビで我々の活動が報告されました。その他世界のさまざまなメディアにも注目されています。国内から世界へ、世界からまた国内へというふうに情報が流れて、我々の思いが日本の国のなかで本当に実現することになれば大変嬉しいと思います。機会を作って下さった牧山先生にあらためて御礼を申し上げます。

牧山議員 ありがとうございます。こういった会でみなさんの声をどんどん出して行って、国会の中でも賛同者をどんどん作ることが大事だと思います。さっそくですけれども明日もこれをやりたいと思います。できれば質疑応答も。賛同者ばかりではなく、ご心配の方もたくさんいらっしゃると思います。いろんなリスクが伴うお仕事ですから、リスクについてなど、聞いてみたいこと、いろんな疑問もあると思いますので、そういった場をどんどん作ってゆきたいと思っております。